

桜蔭俳話会 十月句会 (第三三九回)

平成二十七年十月三十一日(日)

会場 旭区民文化センター(サンハート)

- 5点②ふだん着のままの色なり吾亦紅 ツル子
- 4点①一灯のゆらぎの底の鉦叩 才美
- 4点①ペン胼胝の消えて久しや秋ともし 守
- 3点①始まりし雑木紅葉医者通り ヤエ子
- 3点①流星や先に決めおく願ひ事 友子
- 2点①秋の蜂狂気の翅を畳みけり 守
- 2点①きのこ飯母の遺愛の鉄の釜 守
- 2点①菊日和話しかけるゴリラの眼 才美
- 2点 色あせし寂しさつのる曼珠沙華 邦子
- 2点 電子辞書鳴る音だけの夜長かな 弘子
- 2点 栗爆ぜて次の世代へ負の火種 明美
- 2点 登り来て息ととのへし石路の花 ツル子
- 2点 栗爆ぜて原発二機の炉燃ゆる 明美
- 2点 遙か迄入日に染まる柿の里 弘子
- 2点 コンビニの中の薬局夜業の灯 明美
- 1点①にぎやかに送らるる友照紅葉 友子
- 1点①冬の虹天折画家の図録繰る 秀一
- 1点 晩秋や骨董市の酒器揃ひ 秀一
- 1点 大笑ひ健康寿命天高し ツル子
- 1点 陸奥平野青田千枚丈揃う 幸
- 1点 晩秋の空バルーンの華やげり 明美
- 1点 小さき子と加賀のお干菓子秋うらら 才美
- 1点 満月や夫の靴音帰り来る 友子
- 1点 この秋はジャズミサ歌う気分なり 直子
- 1点 手を合わすだけの寺でら山紅葉 弘子
- 1点 朝の庭落ちた熟柿鳥の声 邦子
- 1点 木犀や命短かき香りなり 直子
- 1点 だんまりも時には眩し冬桜 才美
- 1点 身に入むや日々小さくなる母のあり 友子
- 1点 団栗を足裏つぽに当てにけり 直子
- 1点 行き摺りに銀杏拾つてみたけれど 弘子

※

石段の尽きし大寺うすもみじ 弘子  
 赤黄の落葉見ながら老い感ず 直子  
 胡蝶蘭針金纏う晴れ姿 眞壽  
 ハロウインの小さき魔女へ栗の菓子 守

江ノ電の全力疾走秋日燦 秀一  
 心地よき布団のぬくもり朝寒し 邦子  
 屋根の青紅葉の赤が空覆う 眞壽  
 東空に流れ星見て幸祈る 直子  
 山毛櫨紅葉木漏れ日の中弾足 ヤエ子  
 赤とんぼ群れて寄り来る野球場 幸  
 (不在投句 古野明美)

「事務局からお知らせ」

○十一月句会

・日時 十一月十五日(日)午後一時から。

・場所 旭区民文化センター(サンハート)

○十二月句会

・日時 十二月二十日(日)午後一時から。

・場所 旭区民文化センター(サンハート)